

商品テスト・シリーズ(15)

排水として流すタイプの油処理剤

東京都消費生活総合センター

目 次

1 . テスト目的	1
2 . テスト実施期間	1
3 . テスト対象商品	1
4 . テスト内容	1
(1) BOD (生物化学的酸素要求量)	1
(2) 界面活性剤相当分	1
(3) 油分 (ヘキサン抽出物質)	1
(4) pH (水素イオン濃度指数)	1
(5) 油脂組成	2
(6) 処理液の油分の分離状況	2
(7) 肥料成分	2
5 . テスト結果	2
(1) BOD (生物化学的酸素要求量)	2
(2) 界面活性剤相当分	3
(3) 油分 (ヘキサン抽出物質)	3
(4) pH (水素イオン濃度指数)	3
(5) 油脂組成	4
(6) 処理液の油分の分離状況	4
(7) 肥料成分	5
6 . テスト結果のまとめ	5
7 . 表示	5
8 . 生活文化局の対応	7
9 . 都民の皆さまへのお願い	7
写真	8
別表 テスト対象商品一覧	14

1. テスト目的

使用済みの食用油を排水として流すと川や海を汚すおそれがあるため、東京都では新聞紙等にしみ込ませるなどしてごみとして出すよう呼びかけているが、最近、排水として「流せる」タイプの処理剤（以下、「油処理剤」という。）が出回っており、水環境への影響が懸念される。

そこで、使用済みの食用油に油処理剤を混ぜたとき油の成分は分解するのか、排水として流したときに河川等の汚れにつながるおそれはないか、などについて明らかにするためにテストを実施し、都民に情報提供することとした。

2. テスト実施期間

平成15年7月から12月

3. テスト対象商品

使用済みの食用油に油処理剤を混ぜて流すタイプの油処理剤5商品を都内のドラッグストア、インターネットで販売している業者から購入し、テスト対象商品とした。詳細は別表に示した。

4. テスト内容

(1) BOD（生物化学的酸素要求量）

JIS K-0102「工場排水試験法」に基づき、油処理剤、天ぷらを揚げた後の油（以下、「使用済み食用油」という。）を油処理剤で表示に従って処理した処理液、台所用合成洗剤のBODを測定した。使用済み食用油の処理は次の条件で実施した。

BOD：水中に含まれる有機物などが微生物により分解される過程で消費される酸素量で、通常は20で5日間に消費される酸素量をいう。

表1 BOD測定条件 ml

	1	2	3	4	5
使用済み油	90	150	100	100	100
油処理剤	3	5	5	2	2
水	625	450	350	500	750

(2) 界面活性剤相当分

JIS K-3362「合成洗剤試験方法」に基づき油処理剤の界面活性剤相当分を測定した。

(3) 油分（ヘキサン抽出物質）

使用済み食用油を油処理剤で表1の割合に従って処理し、JIS K-0102「工場排水試験法」に準じて測定した。

(4) pH（水素イオン濃度指数）

使用済み食用油を油処理剤で表1の割合に従って処理し、処理液のpHを測定した。

(5) 油脂組成

使用前の食用油、使用済み食用油、使用済み食用油を油処理剤で処理した処理液、オイルボールについて、液体クロマトグラフにより、油脂組成、すなわち、脂肪酸、脂肪酸モノグリセリド、脂肪酸ジグリセリド、脂肪酸トリグリセリドを分析した。

なお、使用済み食用油を油処理剤で処理した処理液、オイルボールについては、次の前処理を行い、分離した油分を分析した。

使用済み食用油を油処理剤で表1の割合に従って処理し、食塩を加えて振とうした後、遠心分離器を用いて油分を分離した。また、オイルボールは、温水で溶かした後、n-ヘキサンで油分を抽出し、食塩を加えて振とうし、遠心分離器を用いて油分を分離した後、n-ヘキサンを蒸発させ油分を分離した。

注) オイルボール：油などの成分が下水管を流れるうちに变形して白い固まりとなったもの

(6) 処理液の油分の分離状況

使用済み食用油、油処理剤、純水(又は塩分を含んだ河口の水)を表1と同じ割合で混合した処理液について1時間後、3日後における油分の分離状況を観察した。

(7) 肥料成分

「種まき前の堆肥づくりに」「植物の成長期に」油処理剤で処理した食用油を使用できると表示されていた1及び、使用済み油について、肥料分析法に準拠して窒素、りん、カリウムを分析した。

5. テスト結果

(1) BOD(生物化学的酸素要求量)

ア. 油処理剤

油処理剤のBODを表2に示した。BODは、680,000~1,200,000mg/lであった。また、広く家庭で使用されている台所用合成洗剤2検体についてBODを測定したところ210,000~300,000mg/lであった。台所用合成洗剤に比べ油処理剤のBODはいずれも高く約2倍~6倍であった。

表2 油処理剤のBOD mg/l

1	2	3	4	5
1,200,000	740,000	680,000	910,000	800,000

表3 台所用合成洗剤のBOD mg/l

A	B
300,000	210,000

イ. 使用済み食用油の処理液

使用済み食用油を油処理剤で表1の割合に従って処理した処理液のBODは、530,000～950,000mg/lであった。これは、排水として流す時のBODに相当するものである。

表4 使用済み食用油の処理液のBOD mg/l

1	2	3	4	5
600,000	530,000	950,000	780,000	740,000

(2) 界面活性剤相当分

油処理剤の界面活性剤相当分は表5に示すとおりであり、70%～87%であった。通常の台所用合成洗剤に含まれる界面活性剤の量は20～40%であるので、油処理剤はこれに比べてかなり多く含まれていた。

表5 界面活性剤相当分 %

1	2	3	4	5
80	87	85	70	71

(3) 油分（ヘキサン抽出物質）

使用済み食用油を油処理剤で処理すると、油が乳化し懸濁した状態になるが、n-ヘキサンで抽出した後、食塩を加え振とうすると油分が分離した。回収した油分の量を測定すると表6に示すように、油処理剤で処理した油分をほぼ100%回収することができた。この結果から、使用済み食用油を油処理剤で処理しても油分量は全く変化しないことが明らかになった。

表6 油分

	1	2	3	4	5
処理した油分 g	27.38	27.37	18.26	45.64	45.63
回収された油分 g	27.58	27.37	18.50	45.19	45.95
回収率%	100	100	100	99	100

回収率 = 回収された油分 / 処理した油分 × 100。回収率が100%を超えたものは100%と見なした。

(4) pH（水素イオン濃度指数）

使用済みの食用油を油処理剤で処理した後の処理液のpHは4.9～9.2であり弱酸性～弱アルカリ性であった。

表7 pH

1	2	3	4	5
9.2	8.0	8.9	4.9	5.0

(5) 油脂組成

使用前の食用油、使用済み食用油、前記4.テスト内容(5)油脂組成で分離した処理液の油分、オイルボールの油脂組成を表8に示した。

食用油は脂肪酸トリグリセリドを主成分としている。油処理剤で処理した使用済み食用油から得られた油分は、1～5のいずれもほとんどが脂肪酸トリグリセリドであり、使用済み食用油の組成とほとんど一致していた。この結果から、油処理剤で油を処理しても、油の組成は変化していないと考えられる。なお、オイルボールは、ほとんどが脂肪酸であった。

表8 脂肪酸組成 %

成分	1	2	3	4	5	使用前油	使用済み油	オイルボール
脂肪酸	0.6	0.4	0.4	0.4	0.5	0.5	0.5	92.5
脂肪酸モノグリセリド								
脂肪酸ジグリセリド								2.4
脂肪酸トリグリセリド	98.9	99.2	99.1	99.2	99.1	99.2	99.2	1.0

(6) 処理液の油分の分離状況

使用済み食用油に油処理剤と水を混合し、十分振とうしてから油の分離状況を観察した。それぞれの混合割合は表1に示すとおりである。なお、水はケース1では純水を、ケース2では塩分1.5%を含んでいる河口の水を使用した。

使用済み油を処理したときの油分の分離状況を写真1～20に示した。また、懸濁層の一部を採取し純水で希釈したときの状況を写真21～26に示した。

ア. 1時間後

純水を用いたものよりも河口水を用いたものの方が油の分離が良かった。

(ア) 1について、純水を用いたものは[使用済み油と油処理剤]の懸濁層(以下、「懸濁層」という。)と水層に分離した。河口水を用いたものは油層、懸濁層、水層に分離した。

(イ) 2について、純水を用いたものは懸濁層と水層に分離した。河口水を用いたものは油層、懸濁層、水層に分離した。

(ウ) 3について、純水を用いたものは懸濁層と水層に分離した。河口水を用いたものは薄い油層、懸濁層、水層に分離した。5検体のうち3が油の分離が最も悪かった。

(エ) 4については、純水を用いたもの、河口水を用いたものともに油層、懸濁層、水層に分離した。

(オ) 5については、純水を用いたもの、河口水を用いたものともに油層、懸濁層、水層に分離した。

イ. 3日後

全体的に、1時間後より3日後の方が油の分離が進んだ。

(ア) 1について、純水を用いたものは懸濁層と水層に分離した。懸濁層を採取し、純水で10倍に希釈したときはっきり油膜が確認された。

河口水を用いたものは油層と水層に分離した。

(イ) 2について、純水を用いたものは懸濁層と水層に分離した。また、懸濁層を採取し、純水で100倍に希釈したとき、はっきり油膜が確認された。

河口水を用いたものは油層、懸濁層、水層に分離した。

(ウ) 3について、純水を用いたものは懸濁層と水層に分離した。また、懸濁層を採取し、純水で100倍に希釈したときはっきり油膜が確認された。

河口水を用いたものは薄い油層、懸濁層、水層に分離した。5検体のうち3が油の分離が最も悪かった。

(エ) 4について、純水を用いたもの、河口水を用いたものともに油層、懸濁層、水層に分離した。

(オ) 5は、純水を用いたもの、河口水を用いたものともに、油層、懸濁層、水層に分離した。

(7) 肥料成分の分析結果

1の油処理剤について肥料成分である窒素、りん、カリウムを分析したところ、窒素が2.7%、カリウムが微量含まれていたが、りんは含まれていなかった。また、使用済み油には窒素、りん、カリウムのいずれも含まれていなかった。

6. テスト結果のまとめ

川や海に流れ出すと分散していた油が元に戻り浮上するおそれがあり、下水道管の中でも分離した油が固まり、詰まりや悪臭の原因になるものと想定される。

7. 表示

(1) 油処理、環境関連の表示

「油処理剤」「油が処理できる」という表示は5商品すべてにあった。また、環境への影響については次のように表示されていた。

ア. 1

「油を河川などのバクテリアがすみやかに分解しやすい小さな粒子にします。」と分解性が良くなることが表示されていた。

イ. 2

・「本品は100%天然ヤシ油・非イオン系界面活性剤を使用している為、環境にもお肌にもやさしい自然の商品です。」

・「天然のもの同志の素材だから環境に優しく、浄化槽ではバクテリアが食べ、川に流れても好気菌や嫌気性菌のような微生物が作用し、分解され自然を守ります。」

ウ． 4

「 」で処理すると、超々微粒子に分散されます。分散された廃油は、微生物によって水と炭酸ガスに分解されるので、環境に対して非常に安心してご使用頂けます。」

エ． 5

「分散処理された油汚れや廃油は、超々微粒子に分散され、バクテリアによって非常に効率よく、水と炭酸ガスに分解されるために安心して流せます。」

しかし、テスト結果により、油を油処理剤と混ぜると乳化し油が分散するが、時間が経過すると油が分離したり、大量の水で希釈すると油膜が浮くことなどが明らかになった。その点で、「油処理剤」や「環境にやさしい」等の表示は不当景品類及び不当表示防止法に違反するおそれがある。

(2) 家庭用品品質表示法に基づく表示

テストした5商品はいずれも合成洗剤を含んでいるが、家庭用品品質表示法の適用を受けるものは2と3であった。他の1商品は油処理剤をそのまま使用するものではないことから、家庭用品品質表示法の適用外であり、他の2商品は業務用と表示されていたためである。

家庭用品品質表示法の適用を受ける2と3の表示内容に次のような不適正な表示がみられたため、国に通報した。

2

<p>品名：用途を適切に表現した用語に「合成洗剤」の用語を付したものを表示することとなっているが、「 」と、商品名を表示していた。</p> <p>成分：界面活性剤の次に括弧書きで界面活性剤の総含有率及び界面活性剤の種類の名称を付記することとなっているが、「天然100%（非イオン界面活性剤）」と表示されていた。</p> <p>液性：規定に定められた水素イオン濃度の区分に従い「アルカリ性」「弱アルカリ性」「中性」「弱酸性」「酸性」のいずれかを表示することになっているが、表示がなかった。</p> <p>使用上の注意：野菜に使用した場合のつけたままにしない旨の表示がない。すすぎに関する表示がない。用途外に使用しない旨の表示がない。飲み込んだ場合等の応急処置表示がない。</p>
--

品名：用途を適切に表現した用語に「合成洗剤」の用語を付したものを表示することとなっているが、「
」と、商品名を表示していた。

成分：界面活性剤の次に括弧書きで界面活性剤の総含有率及び界面活性剤の種類
の名称を付記することとなっているが、界面活性剤及び総含有率の表示がない。また、
「その他」表示できないのに「その他」と表示していた。

使用量の目安：使用量の適量を表示することとなっているが表示がない。

使用上の注意：すすぎに関する表示がない。用途外に使用しない旨の表示がない。

(3)その他の表示

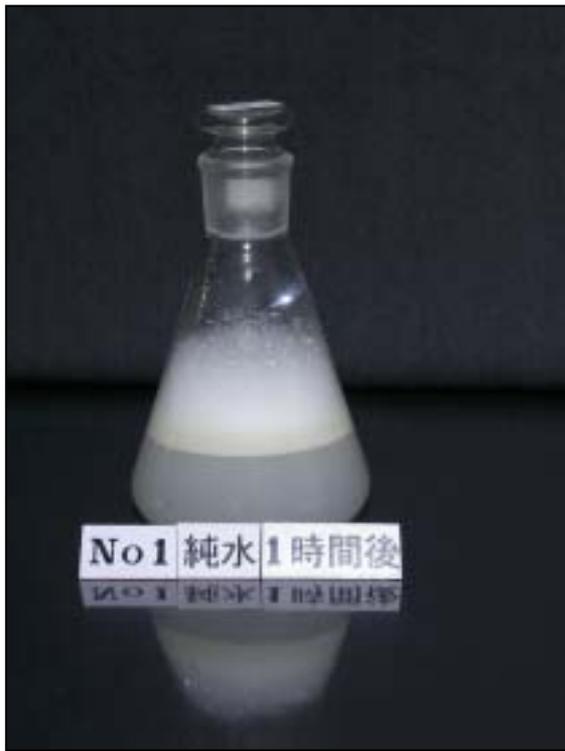
1には、「種まき前の堆肥づくりに」「植物の成長期に」油処理剤で処理した食用油
を使用できると表示されていた。

8．生活文化局の対応

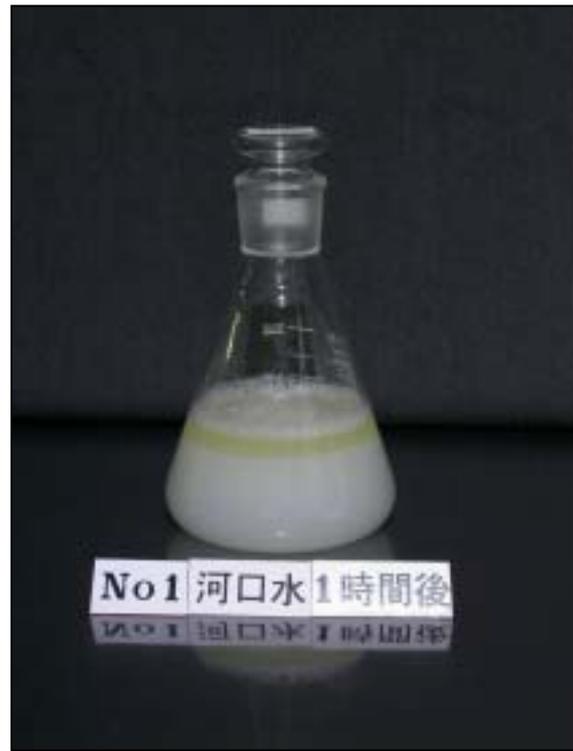
- (1)「油処理剤」や「環境にやさしい」等の表示が不当景品類及び不当表示防止法に違反
するおそれがあるため、当該表示をしている商品及びテスト結果について、国に対し通
報する。また、家庭用品品質表示法に違反する表示が見られた商品については、既に国
に通報した。
- (2)「環境に配慮した消費生活の普及推進」キャンペーン等を通じ、環境に配慮したライ
フスタイルの普及を図る。
- (3)区市町村や消費者団体等へ情報提供を行い、啓発を図る。

9．都民の皆さまへのお願い

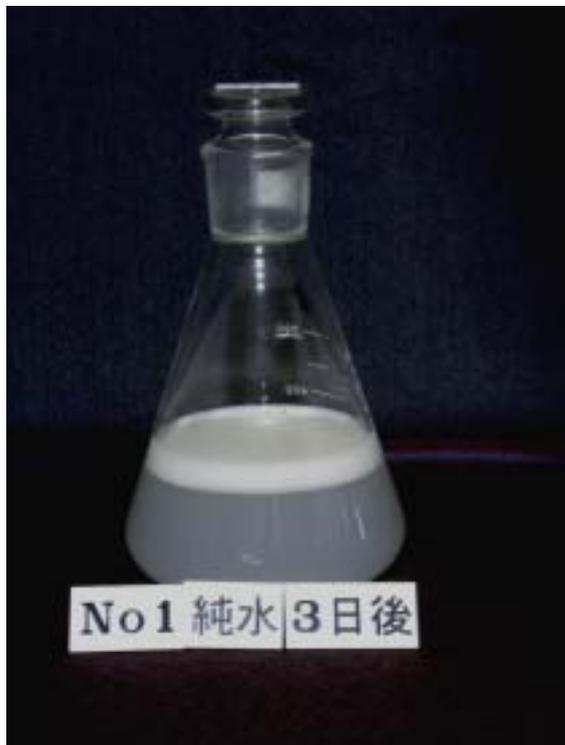
「流すタイプの油処理剤」を食用油と混ぜて下水道に流すことはやめましょう。食用
油は、できるだけ使いきり、残った食用油は新聞紙等にしみ込ませるなど、ごみとして
捨てるよう心がけましょう。



1



2



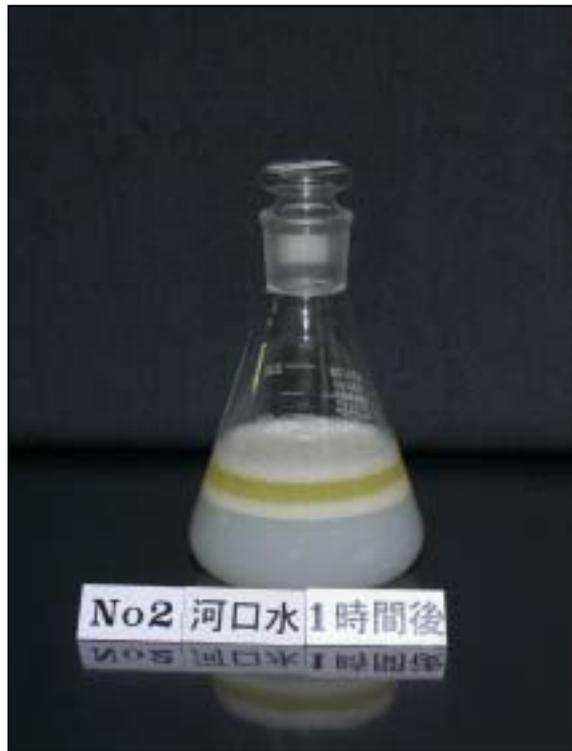
3



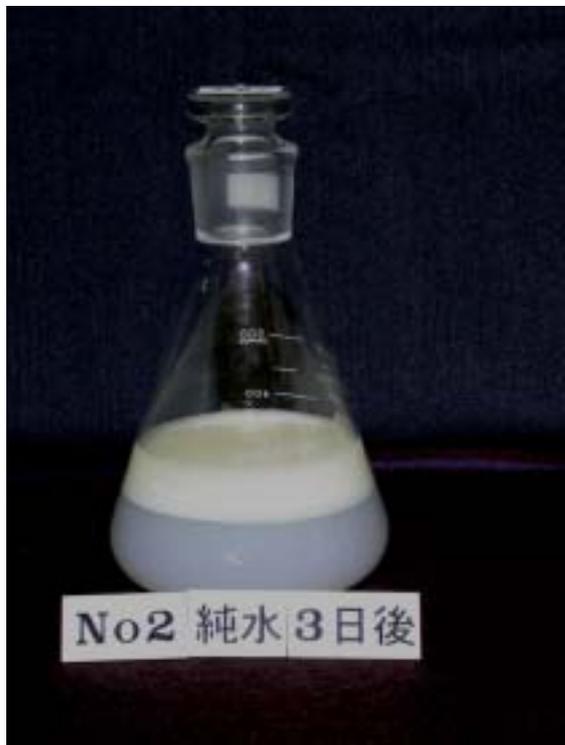
4



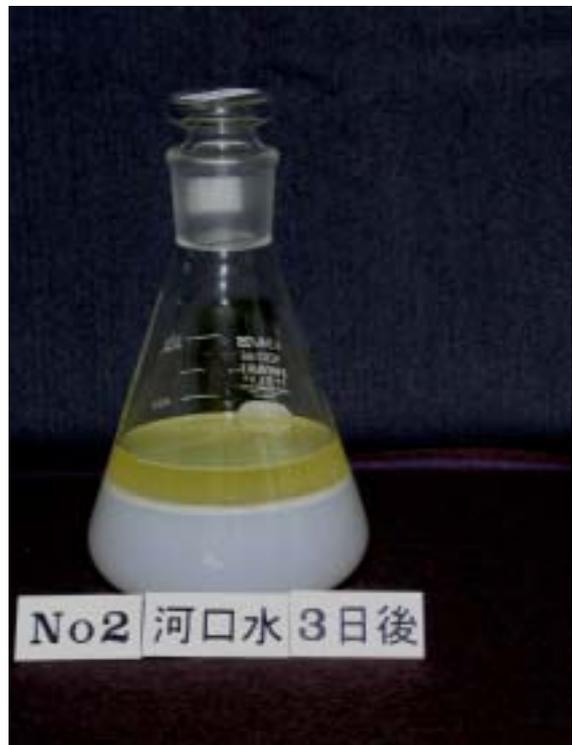
5



6



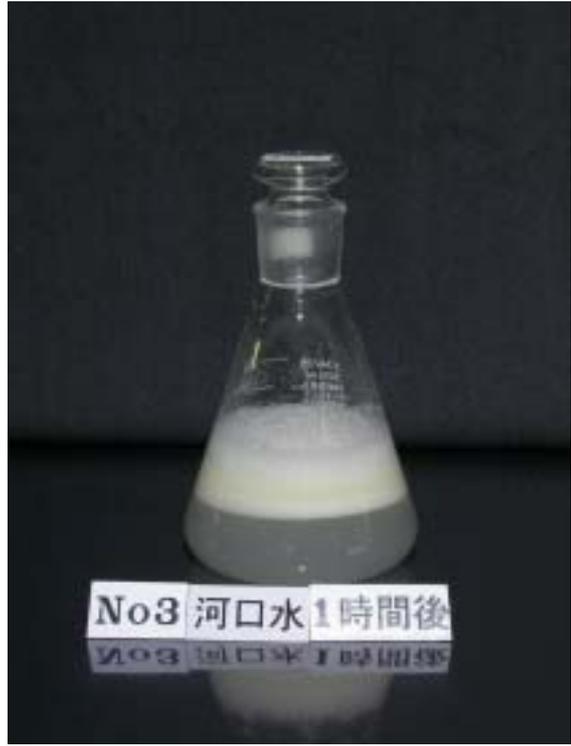
7



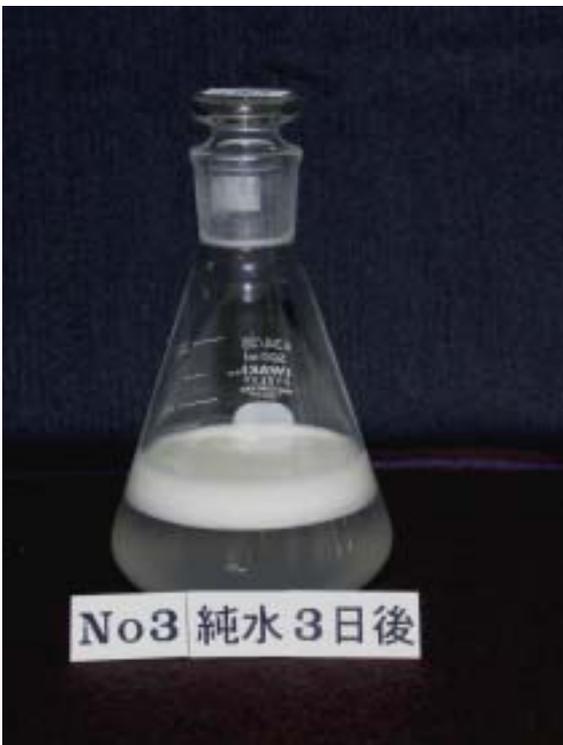
8



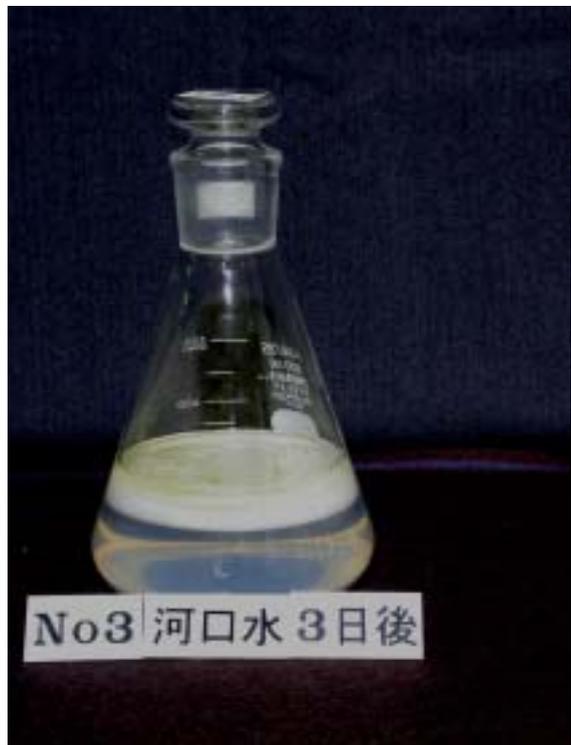
9



10



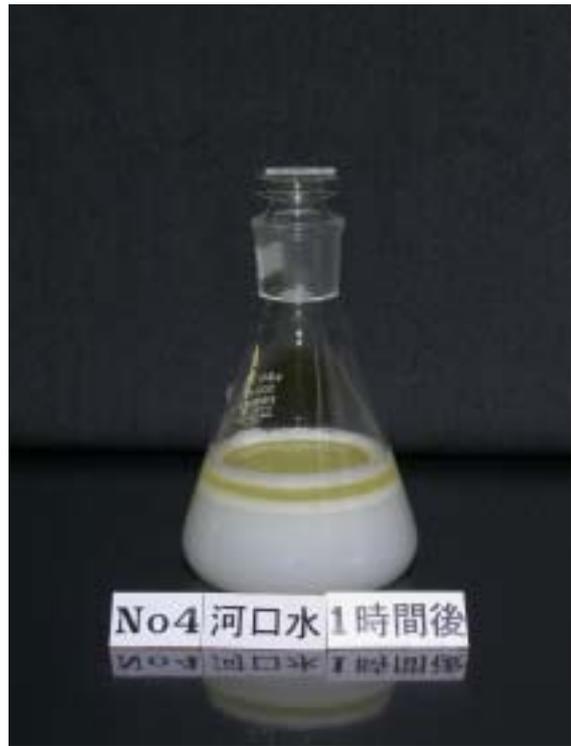
11



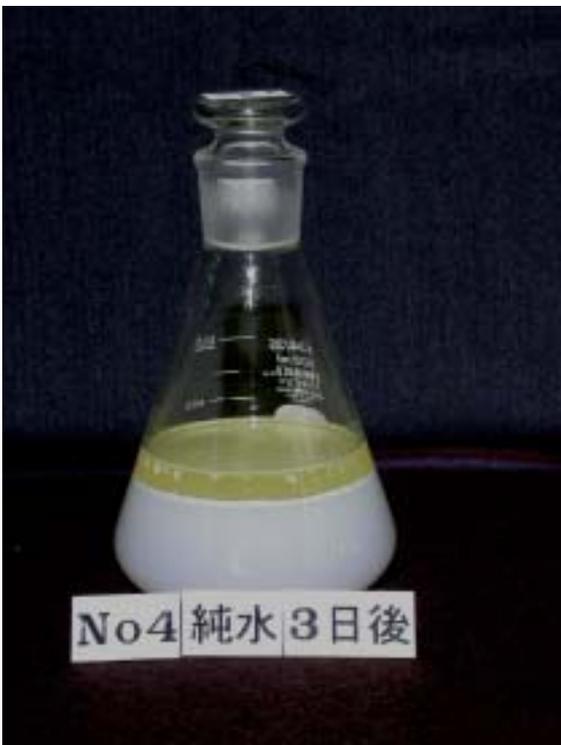
12



13



14



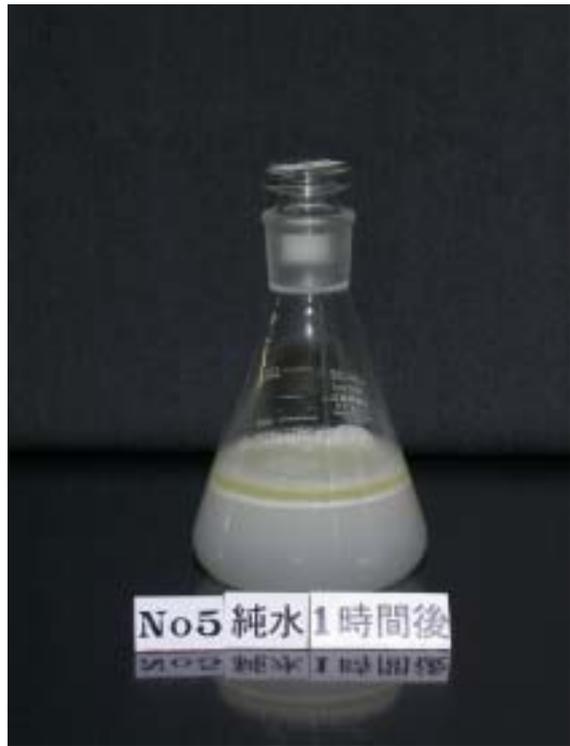
15



16



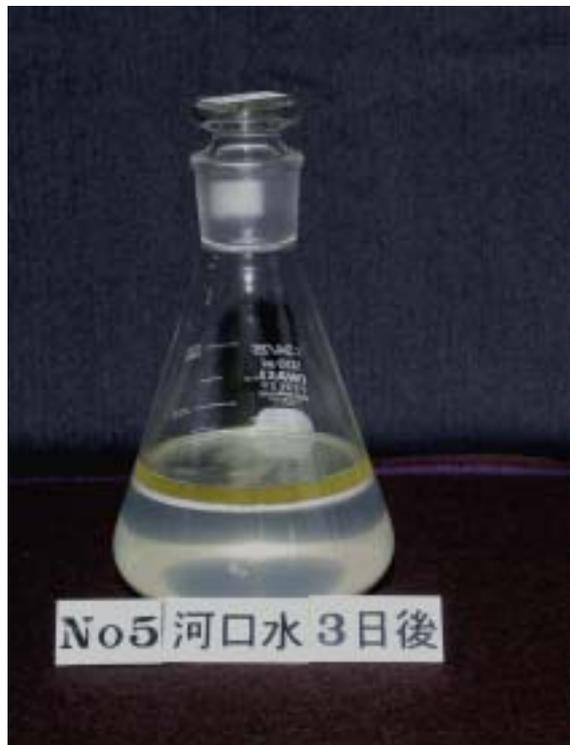
17



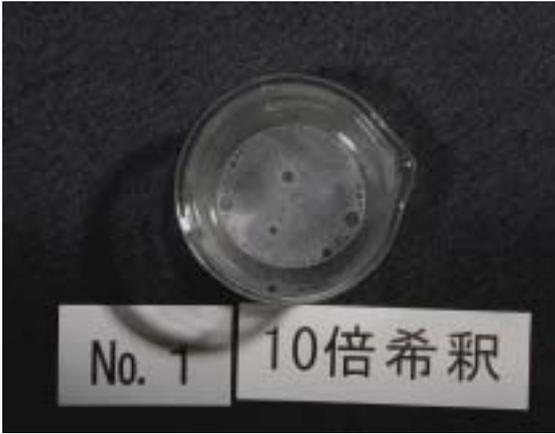
18



19



20



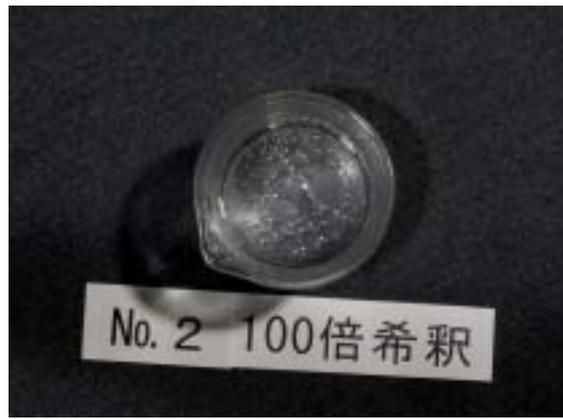
21



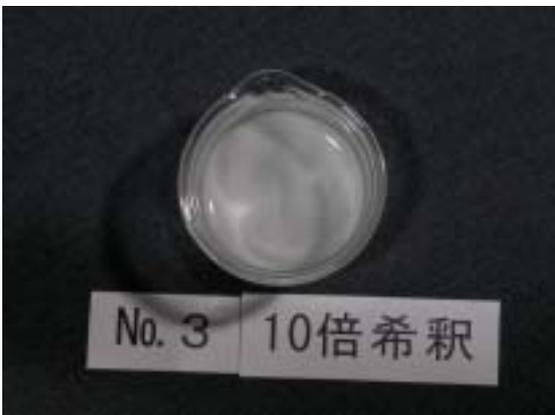
22



23



24



25



26

テスト対象商品一覧

No.	品名	用途	液性 正味量 使用量 の目安	成分	使用方法	使用上の注意	応急処置	特徴	その他
1	食用油 処理剤	食用油 処理用	中性 100ml	界面活性剤 (ポリオキシエ チレンアルキ ルエーテル、 脂肪酸アルカ ノールアミド)	<p>天ぷら油 300ml に対して 10ml</p> <p>基本液の作り方 油 300ml に対し、本品 10ml(1目盛り)の割合で加え、よくかき混ぜます。さらに、油量の 1/3~1/2 の水を加え、黄白色になるまでかき混ぜます。基本液を放置すると分離する場合がありますが、かき混ぜると元に戻ります。</p> <p>換気扇・フライパンの油汚れの洗浄に 基本液に 4~5 倍の水を加え、かき混ぜます。汚れた部分に直接かけてスポンジ等で軽くこすり、水でよく洗い流します。排水パイプの洗浄は、基本液に 50 倍の水を加えてかき混ぜ、そのまま流します。</p> <p>園芸用の堆肥づくりに 基本液に 10~20 倍の水を加え、かき混ぜます。</p> <p>種まき前の堆肥づくりに。 液を、土が湿るぐらいに加えます。夏は約1カ月、冬は約1~2カ月置いて熟成させてからご使用ください。</p> <p>植物の成長期に。 液を、根元の周辺に土が湿るぐらいにかけます。葉や花に直接かからないようにしてください。</p> <p>鉢植えの植物には、ご使用できません。</p>	<p>油の温度は、水を加えてもはねない温度、または冷たい状態で使用する。荒れ性の方は炊事用等の手袋を使用する。幼児の手が届かない、直射日光を避けた場所で保管する。原液が皮膚についた場合は、よく洗い流す。</p>	<p>万一飲み込んだ場合は、水または牛乳を飲ませる等の処置を行い、目に入った場合はよく水で洗い流し、いずれの場合も医師に相談する。</p>	<p>使い終わった天ぷら油を洗えるように処理します カンタン混ぜるだけ サッと油の後始末 健康油も処理できる ゴミを出さない油の処理方法です。使い終わった天ぷら油に水と一緒に混ぜるだけ。油を河川などのバクテリアがすみやかに分解しやすい小さな粒子にします。本品で処理した天ぷら油は、油汚れの洗浄や家庭菜園などの堆肥に再利用できますので、油をゴミにしません。使い終わった天ぷら油を「捨てずに使う」新しい処理方法です。 天ぷら油処理剤</p>	<p>水質汚濁防止法第2条第2項第1号の法令で定める有害物質は含まれていません。</p>

No.	品名	用途	液性 正味量 使用量 の目安	成分	使用方法	使用上の注意	応急処置	特徴	その他
2			250ml 25 回 使用分	天然 100 % (非イオン界面 活性剤)	1 回の使用量 300ml に対しキャップ 1 杯 (10ml)をお使いください。かるくかきまぜ てください。水、又はお湯と一緒にまぜな がらお流してください。同時に排水パイプ 等も洗浄します。 換気扇、ガスレンジまわりの油よごれおと しの場合は、ぬれふきん等に適量おとし てふきとってください。食器や野菜洗い等 に使用する場合は、ぬるま湯で 10 倍位 にうすめて使用してください。	天然原料を使用しているために冬期(低温時) にすこしかたくなる場合がありますので、その時 は温めてご使用してください。高温の油へのご 使用はさけてください。乳幼児の手の届かない ところに保管してください。直射日光及び火気 の近くには保管しないでください。		食用油処理剤 本品は、天然やし油より精製した原料を 100%使い簡単・安全に処理出来るよう に開発しました。また手に大変やさしく出 来ています。 うすめて手にやさしい台所用洗剤 カンタン、水でそのまま流せます 天然やし油 界面活性剤 100% 本品は 100%天然ヤシ油・非イオン系界面 活性剤を使用している為、環境にもお肌 にもやさしい自然の商品です。 天然のもの同志の素材だから環境に優 しく、浄化槽ではバクテリアが食べ、川に 流れても好気菌や嫌気性菌のような微生物 が作用し、分解され自然を守ります。	
3		油汚れ 落とし 使用済 食用油 処理	中性 1000ml	脂肪酸エステ ル(非イオン)、 保存剤、その 他	さめた油 400c.c. ~ 1l に対し 20c.c. ~ 50c.c.を入れる。よくかきまぜ水 を 3~4 倍入れて下さい。乳白色になりサ ラサラになれば OK。処理水で下記の様 な使用方法も有ります。ナベ・油こし・ダスタ ーなど、油汚れした物を処理水につけて 洗うと油汚れがサッと落ちます。レンジ回 りのふき取りも OK 出来上がった処理水は排水口に流して下 さい。処理された洗浄剤を流すと同時に ぬめりやパイプ洗浄に効果が有ります。 油汚れした箇所に直接 原液を 着け乾いたスポンジ・タワシ・ブラシ等を 使用すると抜群の効果を発揮します。 沿槽の湯垢・汚れもかんたんに落ちま す。 衣服についた油汚れ落としに効果的	手荒れ等の心配はありませんがアレルギー体 質の方は御注意下さい。幼児の手の届かない 所に保管して下さい。	万一飲んだ場合水 を飲ませる等をして 医師に相談して下さ い。	手にやさしい中性 無リン 天ぷら油・廃油・処理剤 がんこな油汚れ落としに	水質汚濁防止法第2条第 2項1号の政令で定める有 害物質は一切含まれてい ません。 家庭用品品質表示法に基 づく表示

No.	品名	用途	液性 正味量 使用量 の目安	成分	使用方法	使用上の注意	応急処置	特徴	その他
4	台所用 合成洗 剤	食器、 調理用 具用	中性 1000ml	非イオン系界面 活性剤(95% 高級アルコー ル系)、水	<p>水 1l に対して 1ml 換気扇・レンジまわり・天ぷら鍋・ステーキ 及び、焼き肉用鉄板・魚焼き器等。 を直接、油汚れ箇所にふりかけスポン ジ等でこすれば簡単に落ちます。換気 扇など、こびりついた油汚れは、使い古し た歯ブラシ等でこすれば、楽に落ちま す。</p> <p>台所のパイプ洗浄に！ を 50～ 60 倍にうすめて流せば、パイプもスッキリ します。天ぷら油を処理して石鹸水状に なった液を流せば、パイプの汚れ落とし にも抜群の効果を発揮します。</p> <p>別紙 レンジまわりの場合 『 』を直接 油汚れ箇所にふりかけ、固く絞ったスポ ンジ等でこすれば簡単に落ちます。 天ぷら鍋の油の場合 冷めた油約 1l の中 にキャップ 2 杯(約 20ml)の 『 』を入 れる。よくかき混ぜて、水を入れ、石けん 水状にする。できるだけ多くの水(油の量 の 5～6 倍が目安)と一緒に流して下さ い。 一斗缶の油の場合 約 15l の油に対し、 250～300ml の 『 』を入れる。よくか き混ぜて、水を入れ、石けん水状にす る。小分けにして、できるだけ多くの水と 一緒に流す。(または、そのまま水を入 れ、溢れさせ、床の排水口からながす。)</p>	<p>幼児のシャボン玉遊びや、いたずらに注意し、 手の届くところに置かないで下さい。使用後は 手をよく水で洗い、クリーム等での手入れを おすすめします。荒れ性の方や、長時間又は 原液をスポンジに含ませて使用する場合は、 炊事用手袋を使用して下さい。流水の場合、 食器及び調理用具は 5 秒以上、ため水の場合 は水を替えて 2 回以上すすいで下さい。野菜、 果物等の食品の洗浄には使用しないで下さ い。パイプ洗浄の時は、使用方法を間違え ると、つまりの恐れがあります。油が高温の時 は、使用しないで下さい。使用後は、充分に水 で洗い流して下さい。目的以外の用途で使 用しないで下さい。飲むことはできません。</p> <p>別紙 天ぷら油の処理に関して最大の注意事項 『 』と廃油を泡立て器でよくかき混ぜる のが、最大のポイント！かき混ぜ方が悪い場 合には、油の分散が不完全になりますので充 分に気をつけて下さい。 動物油の廃油には、その成分に防腐剤等が 含まれているため、均一に混ぜる事が困難な ので 『 』を使用しないで下さい。「時間が 経つと、油が浮き、分離したように見える」と の質問が時々ありますが、これは 『 』が 油を超々微粒子に分散した後、それを包み込 んだ状態であって 『 』と油が分離した ものではありません。</p>	<p>万一飲み込んだ場 合は水を飲ませるな どの応急処置をして 下さい。目に入った 場合は、清浄な水 で 15 分以上洗浄後 直ちに眼科医の診 療を受けて下さい。</p>	<p>ガンコな油汚れに パイプ洗浄に抜群の効果 油を強力に落とす の効果! 天ぷら油の処理も出来ます。 ガンコな油汚れをスッキリ落とし、パイ プの洗浄等に抜群の効果があります。</p> <p>別紙 ガンコな油汚れ落としに！天ぷら油の処 理にも！ プロも絶賛！業務用として、多くのレストラ ン・飲食店の方々に大変よろこばれてい ます。 地球環境浄化タイプ洗剤 廃油は、『 』で処理すると、超々 微粒子に分散されます。分散された廃油 は、微生物によって水と炭酸ガスに分解 されるので、環境に対して非常に安心し てご使用頂けます。 さらに地球環境にやさしい 『 』</p>	<p>業務用洗浄剤 天ぷら油の処理をする場 合は、環境浄化の為に、 できるだけバイオボールを 併用して下さい。 [無リン・中性]</p>

No.	品名	用途	液性 正味量 使用量 の目安	成分	使用方法	使用上の注意	応急処置	特徴	その他
5	台所用 合成洗 剤	食器、 調理用 具用	中 性 1000ml	界面活性剤 (90%)非イオン 系界面活性 剤	を、温湯で約 50 倍にうすめ汚 れを落したいパイプに流し込んで下さ い。パイプさらさらすっきり！ 換気扇、天ぷら鍋、レンジまわり、ステー キ及び焼肉用鉄板、魚焼き器などの油汚 れのこびりつきには直接ふりかけ、使い 切った歯ブラシ等でこすり落として下さ い。簡単に落ちます。(温湯でうすめた に浸しておけばさらによく落ちま す。) 天ぷら油を処理した後、石ケン水状にな った液を流すことによりパイプ内とグリストラ ップの汚れ落としに抜群の効果を発揮 します。 植物油の廃油 1l に対して「 」を 20cc 以上入れて、泡立て器等で十分に よくかき混ぜ、水を 7~8 倍以上勢いよく 入れながらよくかき混ぜて処理して下さ い。	幼児のシャボン玉遊びや、いたずらに注意し、 手の届くところに置かないで下さい。使用後は 手をよく水で洗い、クリーム等でのお手入れを おすすめします。荒れ性の方や、長時間又は 原液をスポンジに含ませて使用する場合は、 炊事用手袋を使用して下さい。流水の場合、 食器及び調理用具は 5 秒以上、ため水の場合 は水を替えて 2 回以上すすいで下さい。 野菜、果物等の食品の洗浄には使用しないで 下さい。パイプ洗浄の時は、使用方法を間違え ると、つまりの恐れがあります。油が高温の時は 使用しないで下さい。使用後は、十分に水で 洗い流して下さい。 飲めません。 天ぷら油の処理については、必ず下水道か合 併浄化槽等の処理施設のある所で使用し、絶 対に河川・側溝・田畑・海等に直接流さないで 下さい。処理については、植物油に限ります。 かき混ぜかたが悪い場合には、油の分散が不 完全になりますので、十分に気をつけて下さ い。	万一飲み込んだ場 合は水を飲ませるな どの応急処置をして 下さい。 目に入った場合は、 清浄な水で 10 分以 上洗浄後、直ちに 医師の診察を受け て下さい。	ガンコな油汚れに 分散処理された油汚れや廃油は、超々 微粒子に分散され、バクテリアによって非 常に効率よく、水と炭酸ガスに分解され るために安心して流せます。 グリストラップ、パイプ洗浄にお使い下さ い!! 天ぷら油の処理もおまかせ!	無リン 環境浄化の為に、天ぷら 油の処理後はバイオ球を 使用して下さい。 業務用洗浄剤 家庭用品品質表示法に基 づく表示

注) 表示事項は、商品又はインターネット販売において表示されていたものである。